



大阪公立大学出版会

No.47

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Metropolitan University Press (OMUP)

目次

• 年頭の挨拶	金井 一弘 … 1	• 受賞作品 ………………	4
• 自著を語る (45)「『家族』を変える体外受精」	浅井 美智子 … 2	• 新刊書の紹介 ………………	4
• 自著を語る (46)「高齢者の発達臨床心理学」	篠田 美紀 … 2	• 大阪公立大学出版会事務局より／編集後記 ………………	4
• 自著を語る (47)「道の駅の経営学」	辻 紳一 … 3		

年頭の挨拶



OMUP編集長
金井 一弘

新年早々、大きな災害や事故がありました。とりわけ元日の令和6年能登半島地震により、甚大な被害が発生いたしました。この災害により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、

被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と復興を祈願いたします。

あらためまして、皆様、新年明けましておめでとうございます。

初めてOMUPニュースレターの年頭挨拶を編集長として書かせていただきます。

2024年の正月は、過去4年に比べて病院などの面会制限がまだ残るものの、久しぶりに新型コロナウイルスを忘れて過ごす正月となりました。インバウンドも復活し、外国人観光客が正月の電車や駅にも目立ち、大阪・関西万博を翌年に控え、経済も活性化されることと予想されます。感染症の恐怖を忘れてはいけませんが、やっと日常が戻ってきた感を強めます。

ところで本年4月から、障がいのある人への合理的配慮の提供が義務化されます。大阪公立大学で学ぶ学生や働く教職員で障がいのある人たちが、自然と大学構内の風景に溶け込んでいる姿は実に心地良いものです。そのためにも構内にあるバリアは取り除かれ、互いのコミュニケーションがさらに進められていくことが必要となります。

また、障がいといっても外見でわかる身体障がいだけではなく、「見えない障がい」といわれる高次脳機能障がいやてんかん、発達障がいや聴覚障がいの人たちがいることを知ること大切です。それぞれの障がい特性を学び、共生できる空間を作っていくのが大学の使命ではないかと思えます。

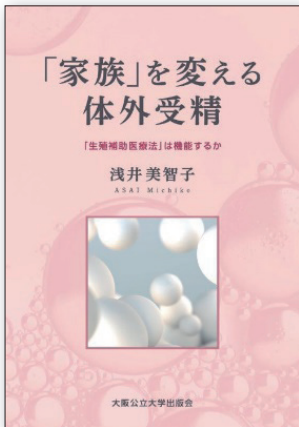
私は大阪公立大学の学生がボランティア精神にたけていることを知っています。「V-station」という、しっかりとしたボランティア組織があり、毎年がん患者を支援する24時間チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」でその活動の姿を目撃しています。そういったボランティア活動においても、大阪公立大学が他大学から一目置かれる校風を培っている場所であることを誇りに思っています。

ただひとつ、心配事があります。それは大学の改変に伴い、羽曳野キャンパスにある図書館が移転するという話です。そこには「さくらんぼ」という立派な闘病記文庫があります。その受け皿がなく、漂流してしまわないかということです。少し前にこのニュースレターのコラムに書いたように、羽曳野キャンパスと阿倍野キャンパスにある2つの闘病記のコーナーは、他大学もうらやむ貴重な財産ですが、それが失われてしまうのではないかと、とても心配しています。

さて、OMUPですが、創立24年目を迎えます。昨年末の運営会議では1年を振り返り、例年になく出版点数が多かったことを確認しました。このまま順調に出版活動を続けていき、存続し続けることが大学の学術出版会の役目だと思えます。大阪公立大学で日々研究されている方々の成果を、書物という形にすることは確かに重責です。24年間その仕事に携わりながら、本年も編集長としてまた相談役として様々な責務をこなしていきたいと思っています。

最後に本年は、同じ高等学校の1年先輩である辰巳砂昌弘学長に、ぜひご挨拶したいと思っております。

自著を語る (45)



「家族」を変える 体外受精

「生殖補助医療法」は
機能するのか

著者：浅井 美智子

A5判、並製本、122頁
2,200円（本体価格2,000円+税）
978-4-909933-49-2 C0036

人工授精や体外受精など、生殖医療による子づくりや子産み実施されるようになってから実に70年あまりが経過しました。その間、生殖医療を規制する法もなければ、出生児の親子関係を規定する法もありませんでしたが、国内で大きな問題になることはありませんでした。しかし、私は、生殖医療の研究を始めた1990年当時、これはいずれ大きな政治的問題になるだろうと思っていました。国民の再生産は国の統治の要だからです。2020年（令和2年）、ようやく「生殖補助医療の提供等およびこれによる出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法律」が制定されました。しかし、この法が人工生殖をもとめる人々や他者の生殖に関わる人々、また人工生殖によって生まれる子どもたちに安寧をもたらすものでないことは明らかです。つまり、本書の副タイトル「生殖補助医療」は機能するのかの答えは「否」ということになります。

なぜ、このような生殖補助医療法ができたのでしょうか。それは、為政者が日本という国を統治するためにあたかも自然であると思われる「家族主義」をこの法の要としたか

らでしょう。家族主義とは家父長制の価値観を内包し、子産み、ケアなどを女性の役割として、家庭内に閉じ込めるための方便です。しかも、この家族主義は家族以外の場でも、「家族的恭順」という規範として機能しています。しかし、夫と妻以外の第三者の関与を可能にする生殖技術はこの家族主義を破壊することにつながり、統治の根幹を揺るがすと考えられているからでしょう。さらに、とりわけ「人工授精」や「体外受精」は、ひとの誕生に多様な人々が関わり、親子関係を複雑にします。1949年以降、提供精子によって生まれた子どもたちは、自分の身体を構成している遺伝子の片方の提供者を知らされることなく生きています。これは極めつけの「存在不安」でしょう。

ひとは生まれ、生きて死す存在ですが、その存在根拠は自分がどのような関係性において存在しているのか、それを了解していることではないでしょうか。生殖医療によって子どもをもつ決断は親となるひとたちですが、提供配偶子や代理母などによって生まれてくる子どもたちは、初めからその存在自体が不安定です。生まれた子どもたちの存在不安に対し、この新しい法は何も応えていません。

本書は2019年に出版した『日本における生殖医療の最適化』を補足する論考をまとめています。今日の生殖医療は、まさに「生命の統治」への序章に過ぎません。『ノヴァノヴァ』という笠井潔の小説があります。地球に住めなくなった人間が宇宙船のなかで、生命をつなぐ物語です。男はゲームをして殺し合い、最終勝者の精子が搾り取られ、女性の身体に人工授精され、生まれた子どもは・・・男は殺し合い、女性は人工授精され・・・生殖技術がこのような用いられ方がなされないことを願うばかりです。

（大阪公立大学）

自著を語る (46)



高齢者の 発達臨床心理学

ロールシャッハに映し
出される認知症の世界

著者：篠田 美紀

A5判、上製本、282頁
2,750円（本体価格2,500円+税）
978-4-909933-45-4 C3011

攻していた学部3回生の頃であった。有吉佐和子の著作『恍惚の人』により、今でいう認知症高齢者とその家族介護の実態が世に取り上げられた頃になる。介護保険制度もなく薬物療法もない、呼称も老人、認知症も“痴呆”や“老人ボケ”と呼ばれる時代であった。目の前の予測できぬ出来事に驚愕するたびに、私はその不思議な言動の源を知りたいと思った。一人はなぜ、このような状態に陥るのか？—

児童学を専攻しながら「老人の心理についての卒業研究をしたい」と申し出た時、指導の先生は「子どもはいつか老人になる。」と認めてくださった。そこから私の高齢者の研究が始まる。学部で学んだ発達心理学に加え、大学院では心の理論と援助法を学ぶ臨床心理学を専攻しながら、私は現場で認知症高齢者に会い続けた。その中で、再び問いが現れた。—子どもはいつか老人になる。老人になって人は子ども返り

—認知症高齢者のこころの世界を知りたい—

私が“痴呆性老人”に初めて出会ったのは児童心理学を専

をするのであろうか？一本書はこれらの問いを追い続け2000年に大阪市立大学に提出した学位論文に修正を加えたものである。

ロールシャッハ・テストという極めて専門的な臨床心理学の手法を用いていたため、出版の機会を逃してしまった。しかし、厚生労働省の推計によれば、認知症高齢者数は2025年に5人に1人、20%が認知症になるという。世界一の平均寿命を誇る社会で、長寿の恩恵を被った誰もが認知症になるリスクを背負い込む時代が到達している。にもかかわらず、実証的なデータを基にした認知症高齢者のこころの理解についての著作がない。ようやく出版を考え始めた時、いろいろな機会が重なり、幸いなことに公立大学出版会にて 刊行のご縁をいただいた。

本書ではロールシャッハ法に顕れた高齢者の反応から、高齢者の生理的精神老化と認知症による病的な精神老化の差異、認知症レベルの進行に伴う変化、認知症の病型による違い、子どもの反応と高齢者の反応の違いを検討した。当時の

記録には薬物療法の影響もなく、認知症が人の心に及ぼす影響がそのまま映し出されている。私の問いは学位論文という性格上、難解な心理学用語とモデルで結論付けられたが、以下のような言葉に置き換えられよう。

「認知症高齢者のこころの世界には〈私〉という主体の経験がたくさん詰まっているけれど、それを表現するための道具を一つ一つ失っていく。使える道具は子どもの時に使っていた道具になるけれど、〈私〉の体験の仕方は子どものそれとは決定的に違う。そのアンバランスさに時として〈私〉はひどく混乱してしまう。」その体験と、表現のギャップはまるで「漢字を忘れ、ひらがなで、しかも時々言葉も欠落して表現される『徒然草』」のようとも言えようか？

多くの先生方にご心配をかけ、ようやくの出版に安堵のお声をいただいている。学位論文の提出後、私は高齢者のこころの世界に分け入る回想法という集団療法に取り組んでいる。思いもよらぬ豊かな世界との遭遇に学生たちと一緒に今なお導かれている。
(大阪公立大学)

自著を語る (47)



道の駅の経営学

公共性のある経営体の
持続可能性をもとめて

著者：辻 紳一

A5判、並製本、336頁
2,970円（本体価格2,700円＋税）
978-4-909933-55-3 C0063

日本経営診断学会 学会賞
「優秀賞」受賞（2023年）

私は、中小企業診断士として、長年にわたり地域活性化支援を実践してきた。特に、地域活性化支援では、行政主体に地域住民や大学等を巻き込んだまちづくりが主流となっている。その中で、商店主の方々、地域の自治会長などを兼務する方も多く、地域のまちづくりには、欠かせない存在となっている。私は、その支援を通じて商店街と地域活性化との深い関係に興味を抱いた。そこで、大学院修士課程に通い、商業集積（商店街）の魅力向上の研究を行った。その後、そのテーマをさらに深めるために、大学院博士課程に進学したが、そこで指導教員から、道の駅をテーマに研究をしてみないかと指南を受けた。それが、本書のテーマに取り組んだきっかけである。

調査を進めていくと、道の駅は全国に約1200か所以上も存在しているが、経営の実績においては、濃淡がみられることがわかってきた。そして、私が長年支援してきた商店街と同様に、道の駅は地域の特徴を活かしつつ、地域振興の担い手であることがわかってきた。一方、道の駅は、行政がイニシヤ

ルコストを支援するケースが多く、公共性が高いことから、あくまでも道の駅の経営は優良であり、持続可能なものでなければならない。よって、道の駅の優良事例について、調査データをもとに統計的モデルを用いて、経営分析の立場からモデル化を試み、今後の道の駅の運営に資する知見をまとめた。その結果、持続可能なメカニズムとして、6モデルと3つの競争優位を明らかにした。その先見性は、現場の実践での必要性から生まれたものである。

分析方法は、道の駅関係者のヒアリングを中心に、マーケティング戦略の4P分析、バリューチェーン分析などの事例分析を行った。また、共分散構造分析（SEM：構造方程式モデリング）やパス解析などの統計的モデルを用いてモデル構築を行った。特に、経営の実態を把握するには、決算書などの計数データが欠かせないが、道の駅の詳細データは公開されていないケースが多く、道の駅の駅長や支配人と何度も対話を重ねて信頼を得たことで、計数データを開示して頂いたことに感謝している。筆者が長年、経営者と関わってきた中小企業診断士の経験が活かした結果だと思っている。

道の駅は、地域資源の活用を前提に、地域の生産から販売までの一貫した流れを地域内にて実現させ、地域内循環を生み出すことで地域振興への貢献を担ってきた。道の駅の強みは、新鮮さ・安全安心などがあり、消費者が求める安全安心の品質確保、農産物の安定供給を実現させるには、川上の農家の強力なネットワーク形成と協力は欠かせない。一方、兼業農家は高齢化しており、品揃えの減少や売上減に大きな影響を与えている。さらに道の駅は増加しており、今後は過当競争が想定されるなかで経営を持続させていくには、他の施設などとの差別化は避けられない。今後は、川上に位置する地元の農家、出荷者組織などの関係性を継続しつつ、地域外

の企業も巻き込んだ新たな商品開発にも積極的に参加できる強力なネットワーク形成と協力体制づくりは重要になると思う。

また、道の駅は公共的な位置づけから地域貢献の担い手が求められている。今後は、道の駅が地域外の来店者を集客できる施設とならなければならない。それには、道の駅の存在

を知ってもらうブランディングの重要性は大きく、希求顧客を意識したブランディングは特に重要となる。多様化する来店者ニーズを掴むには、この道の駅でしか食べられない食材、この道の駅でしか体験できない演出など、店内での体験を充実させる取り組みは、今後も欠かせないだろう。

(名古屋産業大学)

受賞作品



日本経営診断学会 学会賞 「優秀賞」受賞 (2023年)

辻 紳一 著『道の駅の経営学－公共性ある経営体の持続可能性をもとめて』が日本経営診断学会の学会賞「優秀賞」を受賞しました。おめでとうございます。

※ (3頁「自著を語る (47)」をご覧ください)

大阪公立大学出版会事務局より

● 書籍出版相談会 (毎月第1水曜日開催)

2月7日、3月6日、4月3日、5月8日(※)、6月5日、7月3日、8月7日

※5月のみ第2水曜日

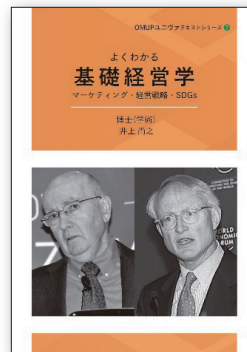
毎月第1水曜日の午前11時～午後2時の間、弊会編集長との出版相談会を開催します。なお、この日は予約制となっておりますので、事前に連絡をお願いいたします。(この日時に不都合がある場合でも対応は可能ですので、ご連絡ください。)

連絡先：TEL 072-251-6533

E-mail omup@omup.sakura.ne.jp

事務局：大阪公立大学中百舌鳥キャンパス
B14棟2階

新刊書の紹介



OMUPユニヴァテキストシリーズ⑦
よくわかる基礎経営学
マーケティング・経営戦略・SDGs

著者：井上 尚之

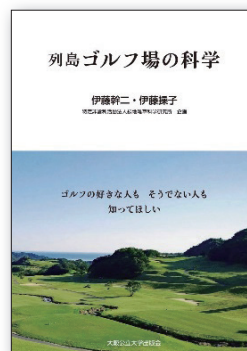
A5判、並製本、130頁
2,860円 (本体価格2,600円+税)
978-4-909933-61-4 C3034



**キャリアコンサルタント
資格取得後の教科書**
一学卒就職支援現場に必要な知識とスキル

著者：三野 明弘

A5判、並製本、186頁
3,080円 (本体価格2,800円+税)
978-4-909933-62-1 C0037



**ゴルフの好きな人も
そうでない人も知ってほしい
列島ゴルフ場の科学**

著者：伊藤 幹二・伊藤 操子

A5判、並製本、198頁
3,300円 (本体価格3,000円+税)
978-4-909933-58-4 C0051

編集後記

新年早々から石川県能登地域で地震、羽田空港で航空機事故が発生し、大変な幕開けとなりました。被災された皆様の生活が一日も早く以前の日常に戻られることをお祈り申し上げる共に、犠牲になられた方々に哀悼の意を表します。

弊会において、昨年は一般書籍に加え、多くの教科書出版の依頼をいただきました。オリジナルの教科書があれば、よりわかりやすい授業ができると思われれます。書籍出版をお考えの方は気軽に事務局へお立ち寄りください。

(文責：湯井順子)